



地域組織の確立で  
会員間の絆の促進を

# 「田中ひさや」組織内候補予定者

## 全地方シニアで推薦を決定

三役会議・共済との  
意見交換会を開催

2月6日、JAM本部会議室で三役会議及び共済事業部との意見交換会を開催した。三役会議では田中ひさや組織内候補予定者の地方シニアにおける推薦決定状況、労働基準法の改悪反対署名活動、政策制度学習会交付金の確認、2019年政策実現の取り組み推進計画VOL.2について協議した。また共済事業部との意見交換会では「シニア共済」の加入給付状況のデータをもとに共済に関わる新たな問題点や要望点について意見交換した。

三役会議では、田中ひさや参議院議員JAM組織内候補予定者の推薦決定を、1月22日岡山、1月26日に静岡が機関決定し、31地方すべてで完了したこと、現役JAMとともに取り組んでいた労働基準法の改悪反対署名は791人（全体では20万3243人）集約したことを確認。本年度よ

り実施する政策制度の強化を目的とした地方学習会への交付金では京都シニアが1月22日に「介護保険制度の上手な利用とその相談窓口」と題する研修会を総勢41人の参加で実施し、この給付を第1号として承認した。また、シニアクラブ入会活動の機材として使用する「シニアクラ

ブのしおり」をリニューアルし3月上旬を目途に発行することとした。今後の日程では今年の定期総会を9月5日（水）に変更することを確認した。

三役会議に引き続き開催した共済事業部との意見交換会ではシニア共済の加入と給付の中間進捗状況（7月～12月）を清野グループ長が報告した。資料からの特徴はシニア共済への加入者数・口数、給付件数・額ともに順調に伸びているものの新規加入者数の伸びが鈍化したことがあげられる。同時期における直近3年間の推移は期首比プラス245人↓283人↓94人と今年は大きく鈍化しており、この原因がなんであるか精査することとした。

また、今年7月から85歳までの継続加入が実現し、給付額も1億円を超え、リタイア後も長期に保障を継続する共済として育ってきたが、さらなる加入促進と新たな制度改善の要望をシニアサイドから要請した。

昨年4月に55年勤めた会社（㈱オリエント）を退職した。正社員42年間、定年後は臨時社員で13年間お世話になった。この間、1970年から1990年まで20年間、労働組合の執行委員長を務めさせてもらった。

私の勤めていた会社は、1974年に会社更生法を申請して倒産した。倒産から再建に向けて経験した一部を報告したい。

同社の創業は、1957年。会社所在地は、群馬県北部の沼田市で、一昨年の大河ドラマ『真田丸』で有名になった沼田城址がある。この地域は、木材の集散地として知られていて製材業を営む企業が多く、同社も、木製品や電気製品を製造する工場として高度経済成長とともに発展してきた。

## 役員OBの一人として 労使の取組の歴史語り継ぐ必要

群馬シニア副会長 兵藤 好宏

労使交渉で、激しいやり取りを行った。ところが、倒産当時のことを経験した社員は、300人の社員の1割にも満たなくなった。40数年前の苦しい経験を組合役員OBの一人として、「後輩たちに労使の取り組みの歴史を語り継いでいく必要がある」

から受け、ホッとしている。この報告を現役の組合役員

### 主張



相次ぐ従業員の退職に歯止めを掛け、

と退職後も感じている。

の歴史を語り継いでいく必要がある」

要請した。

## 田 目標達成へ心合わせる 田中ひさや副会長の推薦決定

### 後藤 正文 シニア担当



平成29年12月6日JAM秋田シニアクラブ第15回定期総会(象潟公民館)

ラブでは、2017年12月6日、来賓と事務局を含む20人が参加して第15回定期総会を開催し、2019年の第25回参議院議員比例代表選挙の組織内候補予定者である「田中ひさや」副会長の推薦を、JAM秋田シニアクラブとして決定した。

冒頭、松江四郎代表幹事から今年度の活動に対する協力に感謝するとともに、直近の衆議院総選挙の結果や関連する政治情勢に触れ「退職者や中小ものづくりに関わる労働者の声を直接政治の場に届けなければいけない」と、その為にJAM秋田シニアクラブも本日の総会で議論する「田中ひさや」副会長の推薦決定から国会へ送る運動に取り組み」と挨拶があった。

JAMシニアクラブからは、来賓として豊泉則幸副会長が出席。この間のJAMシニアクラブ全体の取り組み経過と合わせ、本部の立場からも「田中ひさや」副会長を支援する運動にしっかりと取り組んでいく必要性についてお話し頂くことが出来た。

総会の議事では活動・決算報告を承認後、「田中ひさや」副会長の推薦決定のほか、2018年活動方針、予算、役員体制についても承認を得て成功裏に終了することが出来た。総会終了後は、恒例となった忘年会を開催。会員である佐藤倉太郎さんの生歌、生演奏を会員のみなさんが楽しみにしており、相互にカラオケを披露、詩吟も飛び出すなど大変

な盛り上がりの中、最後は中山満明副代表幹政策実現活動の目標達成に向けた心合わせが出来た。

員からお礼と働く人々の立場に立った法律予算を求めていくとの決意。愛媛退職者連合の織田事務局長、JAM愛媛地協の泉議長、全労済新居浜の中村支所長から連帯・激励を受けた。

## 媛 森永新代表幹事を選出 白石洋一議員が決意表明

### 藤井 正剛 通信員

11月23日、JAM愛媛シニアクラブ第17回定期総会が全労済新居浜支部で、総勢30人参加のもと開かれた。前田副代表幹事の開催挨拶、総会議長に井関退職者の会の館氏を選出して進められた。まず、農田代表幹事が挨拶の中で先の衆議院選にふれ「自民圧勝のなかで、愛媛三区の

このあと議事に入り、2017年の活動経過と決算報告、監査報告、18年度活動方針案と予算案、規約の一部改正案などが、いずれも賛成多数で決定された。

## 茨 総会で2年後の参院選巡り 白熱した議論を交わす

### 井上 純一 通信員

11月7〜8日の2日間、にわたり福島県信夫温泉『のんびり館』でJAM茨城シニアクラブ第16回総会が開催された。会員23人で東京製綱10人、ピクター8人、アイメタルテクノロジ2人、日本ファイリング2人、イケガイユニオン1人が参加した。来賓として、J

AMシニアクラブ豊泉副会長、JAM北関東茨城県連山本副会長の計25人が参加した。信夫温泉『のんびり館』に到着後直ちに総会が行われ、総会に上程された2017年度活動報告、決算・監査報告が承認され、引き続き、2018年度活動方針、予算等の議案

は満場一致で拍手で承認、可決されたが、会員から衆院選での支持政党に対するJAMの見解が明確でなく、組

織が混乱したこと、2年後の参院選における田中ひさや候補予定者の所属政党を巡って白熱した議論が交わされ総会は終了した。

翌日は信夫温泉ひさや不動橋にて一時バスを降り、紅葉の終わった橋から会津市内と信夫山を眺め、更にバスを走らせて硫黄の匂いが立ち込める浄土平から吾妻小富士を眺めて観光センターでの買い物の後、一路五色沼へ。紅葉を見物し昼食は猪苗代で名物のわっぱ飯を食べてお腹が膨らんだ所で一路茨城へとバスに揺られながら無事帰宅した。

総会後入浴、そして第2部の懇親会は、斉藤事務局長の司会で始まり、西副会長の音頭で乾杯。1年振りの総会での再会を喜び合

この後昼食も兼ねた懇親交流会を行い、元気で来年の再開を確認しながら無事終了することができた。

